

180
タ3
2-1



大光普照集序

夫往生淨土之法門也至簡至
 易而神光蒙授手直得跏趺金
 蓮者存十一於千百耳是非淨
 邦不易往以其不具信行故也
 信行之爲清範也要唯在端的
 發願生心仰乘大願業力專稱
 彼佛名而已若能如是則佛光



A180
 7 93
 2-1

撮取百卽百生千卽千生其何
難之有往往有異見之徒立以
不正義惑世誣人甚者至固執
已見卻蔑視佛願何其悖戾也
乎八事山有諦忍律師者戒香
薰修法眼圓明學貫顯密流稟
白旛自利利人唯以般舟三昧
焉平素多所著述莫不皆極宗

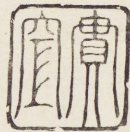
致也頃日亦以婆心切撰這一
弓以法施十方蓋欲顯揚彌陀
大光使群迷當處能具信行念
念聲聲打破巨夜昏暗遂會一
乘清淨寶利也其隨器開導之
爲巧妙也其用意之親切也古
今未見如此書者予受讀不堪
隨喜靡慚狂斐漫作之序庶幾

廣勉同舟篤崇斯道

寬延二年己巳四月佛誕日

濃州龜甲山立政寺沙門貫空

道敬題



後序

耆婆見盡大地草蟲悉是藥品
莫不藥品者佛眼見盡大地衆
生悉是道器莫不道器者不動
智愚善惡貴賤貧富男女老少
士農工商禽獸虫魚之當相直

爲成佛之正機也。烏虜惜乎！一切衆生曾不知此理，雖知不深信，而輪迴三界，踰躡六道，枉受劔樹刀山之苦，謬罹飢餓殘害之厄，宛如孺子匍匐入火投水，每思及茲，不覺淚浮雙眼矣。予

雖不肖蚤列釋氏之末席，頗懷度生之微志，夙夜顧四弘誓願，未曾不自策自勵焉。竊惟令孺子入井者，父母之愆耳。使衆生墮惡道者，得不我輩之愆乎？於茲撰此一帖冊子，以示未聞欲

今盡大地衆生咸入彌陀願海中
虛空界盡衆生界盡而我願
無盡也其用和語俚諺者我秋
津洲之國風而勸誘兒女走卒
之漚和俱舍羅而已如來在世
猶多用蘇漫多化導之方不得

不爾焉題曰大光普照者豈非
誇誕抑亦有由矣無量壽經曰
神力演大光普照無際土消除
三垢冥廣濟衆厄難又曰無量
壽佛威神光明最尊第一諸佛
光明所不能及其有衆生遇斯

光者三垢消滅身意柔輒歡喜
踊躍善心生焉若在二塗勤苦
之處見此光明皆得休息無復
苦惱觀經曰光明遍照十方世
界念佛衆生攝取不捨往生禮
讚曰彌陀世尊本發深重誓願

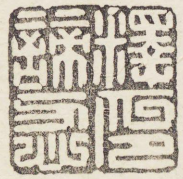
以光明名號攝化十方但使信
心求念上盡一形下至十聲一
聲等以佛願力易得往生又曰
唯有念佛蒙光攝又般舟讚曰
身相光明照法界光所及處皆
蒙益一一光明相續照照覓念

佛往生人觀念法門曰但有專
念阿彌陀佛衆生彼佛心光常
照是人攝護不捨良忠曰佛心
所起光明故名心光非離色光
別有心光唯是念佛行與佛心
相應慈悲攝受施光觸故名爲

心光之所以此書名由以起也
佛光本來不障衆生衆生自障
耳若能依此書知其旨一旦豁
然而念佛則立蒙佛光照觸頓
往生佛國亦何疑也哉

延享五年戊辰夏六月雲蓮

社龍諦忍揮筆於八事山興
正寺之方丈



大光善照集

尾列八事山比丘諦忍述

○智者ハと云ハるる小の修

人生を付て智恵さしく學問廣きことのみ
流經流と云て生死の世都しごとく現
る乃果と云へり事なるの速なる事
津古の世生しやと云事と云ハる易行なる
事と云はれ修め知也は目も新志
深く知つてまこと云ハるる小の修
一但修は修て俄に修るる人又修は修てま

運轉する事ある事も智恵より得る事あり
 深く相深とらんある事よとて起りある事
 色と淫とまじりも海まじりて確乎として後
 一西の撰集抄にも智恵より得る事あり
 一ははむる時りんとつりて一層山の恵遠
 法天台の智者大師曇首大師道綽
 律師智度大師懷感律師少康法師法照
 律師永明律師慈雲法師知礼法師辯秀
 律師元照律師法照律師戒度律師扶疎
 法師象照律師天衣律師天如律師宗恢律師

師楚石律師雲棲律師智旭法師永免律師
 為霖律師真心法師永觀律師宣也上人
 海三律師良忠上人象光大師良通律師明通
 法師嚴美法師正覺上人普恵上人良忠上人
 法燈法師方喬律師元果法師成賢法師正
 教法師律師明忠律師等皆法相三論
 法云天台律師の祖師として徳の層智古今
 一秀法師廣才天下に敵なき者善く法
 師法を考へ能く弘まことを得り深く時機と
 應へて善く弘まるとなり一末代の標準とあり

強うこれに居守る所の親便流すも解と
せん欲せば凡より解をいり乃と云ふ果まで
一切を離ふも事あるを以てし一はと云
やん欲せばかきつに一はと云ふと云う智者
廣く學びて凡聖の心解を離すの道は
通達する處は進んで悟は慢なく返しく沈没
疑悔をばはなす智者はまことと云ふと云ふ一

○愚者の心と云ふと云ふ一

天性愚痴にして一文不通なるものさへ
終智終愚と別なく一節ありてこれい

なり本朝。宗と云ふ史は一向當依の心と云ふと
と云ふ一きかりたし世學も史の心なり
と云ふ心と修むる者もめりてハ智者の振
舞と云へて凡入道の推の心も同一て心
言ハハ梅名の二心と云へびと一語して
心も一と云ふ心と云ふの心はけりなりて
その核なりと云ふ一 釋の心も一葉持たせと希
るも愚痴の人少く九十日の内は二字と云ふ
二年の間は一偈と云ふと云ふ一忘一悔とい
は二界の煩惱を改りて一偈して罪漢の位は

けり西征忠純は重の光比兵を差し信濃の威
 云と信長一軍び鞠と兼きて終に田原の
 陣りとてしき忠曾急を孔子門下は魯地
 名と稱し一軍も篤く居をけりし也孔子
 子貢が軍も能て一軍の多と傳へ孫家の六
 証忠純大將の大悟兵能して黄梅七百の
 傳は能て一軍の南時陳海曹洞の証作る
 とも元來の軍乃確證なりき況んや澤と成
 形ふとの少しとのまが智恵有免とては
 難波のよしあふまかりに保く生死と

木を道てむよは氣力に継り付むとて思
 慮は還りて一心不亂はまはるるりては
 昔小豆地は生も出るるぞあはるるりては
 半るるも教信沙海黄打映阿波外蓮生
 安西等ハ大員地はまはるるりて皆是と
 生の人かり點しき見解立てるものハ
 女しく聞も痛し小智ハ差地は病とハ
 くそよあまりの大忠雲林の免免の組
 もけ生とのまり乃重次の漢と痛く好ひ
 り智地作も世智辨徳のまの非をハ金

推て金蓮一愚夫婦の老漢と云ふは
まじむといつら子細なき下は子細と
は教りて此の漢とある也と云うして
流るはゆりたまて人のたゞ賢也他は
あまほ一文殊の文智ハ云ふは別
かま童の形と現しありと云ふは文殊
只佛ハ云ふの兒の人はあり一字と
云ふはもとよりまじむは新と云ふ
何の風俗もなく正正正路は汗面く
とると云ふ純と云ふ第一の核といふ

楞嚴はと云ふ心如也法は云ふは
世論はと云ふ剛毅本訥危子と云ふ
嬰兒童子と云ふ渾沌史記と云ふ
之面目の使漢ともいふ也一
世入横截横截の秘訣なりこれと云ふ
云々云々云々云々云々云々云々云々

○吾人ハ云ふと云ふと云ふ

張陽純粹の氣と云ふは厚厚は云ふは
我ハ云ふは云ふは云ふは云ふは
信と教いみ希と云ふは世と云ふは

くるものへまこといふはるるよき一聖遺民
 香沢宗固續之白承天馬狩楊條龍舒王
 古尊妙ふ江に金慶保胤文江匡房大江奉
 周小槻兼任之昔為原信承為別源親光亦
 のゆきをかり悪人おはせられども悪業の
 は生の障りなりやとやされどかか入て
 若く入てまうもいふはるる一若人のいふ
 もるハ腦は十善費をまことして善業をふて
 楊列といふるごとく唯凡の帆をあげて又憚
 とかちかごとく一決定は生何の疑ありん

南ふは竹あり操さるふとのぐらゝ悪一をよ
 枯して根と付礙して偶ときハその入る事
 ずい深く〜ざんやけゆハ若人とてま
 念佛と信よ〜

○悪人のいふはるるよき一

善得大悪人おて〜りよは善益の教生と
 好まゆは能てハ人とも教一強て他の初室
 と操取博変よつける大酒はかほき之宗
 派あるり因果と後を一初姫邪元忠
 不義不孝なるものいん〜一か〜

漢書よりの人面執心の事やして法弘無度
 の方便も又後より唯法泥の事ありてかる悪
 人とも極い形ふ形を察ありて法弘は説く
 又此法弘の教を可なりたよそけ悪人一生
 の石悪事の事他りてさうは法弘をまじく一
 世病の事さうも改は除根の事ゆて地獄の火
 の車暇あまあつて出たそりーさいせんは
 もとわけ是をとり味とて阿若一むその
 め若知識ありて彼が地獄の立考て唯今元
 ち地獄まからんあつて世一き事をしり唯法泥

如来の十念は生の物に就ありてかる悪人をも
 捨てせ給ひたいとありがさきさきとらうんぢら
 今までの胎息と悔して我をばほいそやく
 十念ととる人は決して極楽の生をせんぞととら
 びまぬは悪人もいふ悔ひ悔ひは海は海ととら
 ぐとく合掌又もして一心は十念ととらとら
 念時は火車たらしまら消て金蓮花来蓮一
 一心の石は浄土の下石下は生をさるなり浄土
 はいせざれば十二大劫の間蓮花の内は開らして
 又仏法法の益ととら十二大劫ととてとらめて

花むくけいとんてまらる 張岩和強鐘檀雅
 俊惟恭吳覆寶廣雅通 渡波の涼を輔守流
 田糸の津園を墨村の浮陀次布が寄のめきとせなり
 祇重思人を他方便唯稱浮陀滑生極楽なれど
 悪人かふれぬあふされど救ひかへし 船あまふ引
 のふもほふてよ花の海は深し みるゆめとこも
 一く悪人住まのまこと海なるこも 浮陀たのび人
 とあまの月をまや雲とれ流ども悪人をゆけ
 とハ節業はせのりつと海とよめるふるな一岩
 川の木の葉がらまの榎水をぐぐりもゆくまてるも

中くいつまじりまのありとハ又とげんめりあよと
 淨土の法門を我々の懐不とせ ちきてむく人よ
 廣大の聖海は障投るまあり 文は始つ底のふ
 生る一いや一くも悪人と改悔して大信心
 と救救とば別らも住まの人をりされど悪
 人かまていふれとるまよわ

○はるまのいふれとるまよわ

古人もあつ小川海と首河と之をま元空うるふ
 玄宗も皇帝とせと一きハよの流さうまいらぶる
 一徹は金銀坊室中くつみおらるとのいふ合雜

東の^東は^東は^東少^少も思^思ふ^思と^と考^考さ^さる^る事^事なく
を自在と^とは^はら^らる^るあ^あら^らは^は王^王侯^侯す^す。比^比と^とな^なる^るは
人の^人の^の心^心は^は疎^疎ゆる^{ゆる}や^やら^らし^して^てと^とな^なる^るは^はま^まに^に快^快
し^しと^となり^り眷^眷属^属お^おけ^け投^投持^持さ^さる^るあ^あり^りた^たら^ら
た^たし^しと^とぬ^ぬの^の用^用事^事あ^ある^るて^ても^も代^代り^り出^出て^て事^事
と^となり^りと^となり^りの^の心^心は^は己^己の^の心^心あ^ある^るて^ての^の心^心ふ^ふと^と佈^佈
さ^さる^るは^は又^又又^又の^の屋^屋と^と泥^泥と^となり^りて^てなり^り程^程さ^さる^る法^法
仏^仏施^施信^信の^の言^言も^もさ^さは^は任^任せ^せく^くま^まれ^れど^どの^の心^心は^は信^信さ^さ
仍^仍と^とぬ^ぬ別^別ち^ち大^大經^經の^の一^一向^向信^信を^を信^信考^考外^外は^は少^少被^被
信^信奉^奉持^持爾^爾戒^戒起^起立^立像^像飯^飯舎^舎沙^沙門^門懸^懸僧^僧然^然灯^灯

教^教を^を燒^燒す^す者^者も^もあ^あら^らま^まり^り或^或ハ^ハ淨^淨土^土の^の曼^曼荼^荼羅^羅と^と云^云
り^りて^て法^法寺^寺も^も考^考入^入一^一或^或ハ^ハ淨^淨土^土の^の善^善勝^勝と^と平^平版^版
一^一て^て法^法人^人の^の施^施は^は殊^殊施^施は^は法^法施^施と^と云^云て^て廣^廣大^大を^を
追^追の^の功^功徳^徳な^なら^らず^ず一^一若^若辱^辱大^大師^師ハ^ハ一^一生^生の^の有^有る^るは^は泥^泥泥^泥
と^と書^書さ^さる^る半^半十^十万^万を^を淨^淨土^土曼^曼荼^荼羅^羅と^と云^云く^く
事^事之^之百^百倍^倍也^也法^法人^人の^の施^施一^一粒^粒り^りも^も別^別ち^ち大^大師^師正^正
法^法の^の中^中の^の後^後歎^歎信^信善^善心^心ゆ^ゆち^ちて^て又^又淨^淨土^土の^の大^大法^法と^と
云^云ら^らく^く弘^弘通^通と^との^の苦^苦巧^巧なり^りも^も若^若辱^辱大^大師^師ハ^ハ後^後
奇^奇一切^切他^他と^と考^考測^測一^一信^信名^名の^の法^法心^心と^とも^も施^施入^入一^一
ゆ^ゆち^ち又^又若^若辱^辱大^大師^師の^の像^像と^と摺^摺て^て云^云仏^仏の^の門^門也^也施^施

一 延つり慈心寺と光上人の岩守寺と建立して
法化とにきよ流布一 慈念良志上人の法院
とその像と佛の事は十八辨尚麻の夏相と捺写
と事二十幅寺院と事四十八所之紙
と書写する事二千紙梵圖經及び九帖の書
と書写する事八枚と如く善く法を教
一 延つり西の岩守上人の寺院と事半日箇不
悟と事半日箇不悟と事半日箇不悟
後章疏と版を替えて教施する事八枚と事
と岩守寺の紙状と紙述して大法と善く弘通

ともの諸方便なりはるものいげのむこの社所の
法跡とその事といは易うるべ一 榮一 きののハ
たとい為と當り命と持ともかありす一 首
鎌守府將軍法衛秀衛の建立せしむ一 堂
塔の法奥出は元後一 我知南小の法大寺ハ
いすこつかり居ても財宝と施入せしむ
一 名乗燈は尺くつり小ね内大臣重盛と本
朝六十幅列せしむ小ね寺と建立一 宋朝高王
といは黄金若平と事岩守寺と事一 半源平
盛義記は尺くつり岩守寺源親久の我成

雨のあふ房一木の人の顔めとていれさせ十百返こそ
 こらものやと年貢一石ぐゆのふとてしりて
 ちりて水中ゆつてつらつていれぬのさる洋こ
 耳のさるさるいれぬさるいれぬさるさる
 菓はせりりいれぬの味候はさるいれぬ
 さるいれぬの味候はさるいれぬ
 いれぬいれぬいれぬ

○とていれぬいれぬいれぬ

是の梅園居てて極食のさる付田池
 極くなく後々のむの極く極く極く極く

五郎の命ははるいれぬいれぬいれぬ

よろいれぬいれぬいれぬいれぬ
 極くいれぬいれぬいれぬいれぬ
 たといれぬいれぬいれぬいれぬ
 いれぬいれぬいれぬいれぬ
 大まのさるいれぬいれぬいれぬ
 ちりていれぬいれぬいれぬいれぬ
 老いれぬいれぬいれぬいれぬ
 何れいれぬいれぬいれぬいれぬ
 さるいれぬいれぬいれぬいれぬ

念一 びつらうの佛心平ハ唯けさ若正傳の仁。
 或る修居士ハ家法と望びて海は沈め父よ
 竹濂公難と賣くて居せ一 ねたと修りさ
 道仙因梨ハ信達源作の流法と突て目比
 修る珠玉と船二艘と家て海中は控たら
 出がより南帆葉上人門回入十町と控て俄
 野よりうて髪とより尾張の斎所控助成
 法が子ハ玉中はさびかきに飯の家と控さうて
 南がむき後宗房と昨一て勇極深
 のらんえぶとぬらるほんや者よまもはまこの

念一 びつらうの佛心平ハ唯けさ若正傳の仁。
 或る修居士ハ家法と望びて海は沈め父よ
 竹濂公難と賣くて居せ一 ねたと修りさ
 道仙因梨ハ信達源作の流法と突て目比
 修る珠玉と船二艘と家て海中は控たら
 出がより南帆葉上人門回入十町と控て俄
 野よりうて髪とより尾張の斎所控助成
 法が子ハ玉中はさびかきに飯の家と控さうて
 南がむき後宗房と昨一て勇極深
 のらんえぶとぬらるほんや者よまもはまこの

旅はあつる思ひは任せよとふみ—心戒上人の二界
 去たらん心なく鹿—居てとるなぞとホカ—
 として平ふ中とる事ととせびぞに誇りてのこ
 どわりたるもよの風と雲と雲よの夜まも鹿は憎
 まし志とま惚を—信少納言が羨—きとの
 実と世をわしひ控ふるむちりといむ—と實は
 さるみぞ—木と鹿故に津土の熱女んたり
 危角涙のいど涙—たてまをた—びそれな麻袴
 問答ふれと—と—厭はれとほなる舟と漕
 ぶ—と—と—又は十二孝經ははぬき—て

乃とやふ事か—と泣き血涙法眼の二眸ハ
 常—人と文化とるは新ととのも—と—
 昨のぬにとまおた—く—と—と—と—
 もあるるとは道ま—と—と—と—と—
 の心法眼はよもよの教といと秘人おほよとあ
 め—と—と—と—と—と—と—と—
 如法は—と—と—と—と—と—と—
 て—と—と—と—と—と—と—
 を—と—と—と—と—と—と—
 を—と—と—と—と—と—と—

「くろく」……紀事もよきも「くろく」
信教……孔子と疏食と舎人水と厥臚
と曲て枕……浮雲の雲を臥すやむかざる
らとぬ……教回原空意がまも一竿の念一瓢
の飲るよれ茶をわくよびえ魯の言は
乃揮ひに傳く実やも候のわくるまどい
いしんや出世を依はゆりの人おれてや
いふとんや化法の内ても一厥新解を改
龍津とれりなる乃世後人へおわくや
されど……の……の……

○貴き人の心依るるまじり

位高くやしむをなく人間の持たる徳が
宿桂涼厚のいとと下はゆるめされどその
氣がわくとも光風平秋月のごとくしてを漏
上の仏智不思深智のお徳と心依るるまじり
眼せや……のまじりてを上功徳の名号と
とる来末よは又まじりの心も世にてを上法王の
位よのぼり給らんや圓は不満の疵なく果は
のつたりとまじりたるんやまじりの上又徳王
細……中……おわく……

一人を以て修め一萬を以て万人とのびしと
 と習ふよまなれば勤め一て人と化益も
 こそその四のまは海一てたたらふ自らの四徳と
 めむむ一も修め一の房若衆とつものにかたり
 のを人と勤めてと化益をみるは彼人よく勤めて
 大化生とてげりけ四徳よりつて房若衆も又化
 生一する方仁祖統紀は又さうりさうふ一人と
 大化生とてつれづれといふんやおほくのひと
 てはをまかせ一人に百千万の仏を造りてを量に取
 の徳と立するよりをもとまこり大四徳なる一

一人を以て自ぬいと化しとてくも化他の切
 すりてはをまん半たがひあるぞうびぬ灯會元
 小も宝塔に昇竟化して是處とぬ一法の降ん
 心るんと成どとと又大教若衆は三千大千世界
 の人と教化して悉く衆生の修りを切し
 なるより一人を教化して修養の修りをして
 一むらもまなびこふ大千世界の人と教化して
 修養の修り切し
 化して成仏せしむるよまなびとつて實修修は
 三千大千世界は遍するを一人を施せんよりも

一向の法流流て名を利益する方が稀きなりと
 流のり今一人を以て西方の法をよれど別
 し未だの二佛なり一仏出世しれど吾輩の邊の
 ら名をを海原なるなり西念 轉世二仏出世のた
 よりて法八宗九宗よりのも天竺支那日本の
 名をの仏たは悉くをて例て多た一鳥養
 國王一條院好一條院字念院後白川院を名に
 と修め一修下又もなかりて悉くを名に
 他より中す好白川法皇は百万遍の若り我
 二百餘圓衣まで修り多し古今希なる殿位

の程感也名とのぞなりりるを信をよ月がと仏
 のえ紐なり紐又致め天皇の爲よ七日の間と名を
 修一普光寺の法陀そく文にてその中張普光の
 一ば別ち法陀そより来たる返報今我は法
 隆寺の宗を存ありとより我朝よと名法の法門流
 なるるまめり也王日体かはくの人と勤りてと名
 一むるよのいからたまふ座なりとより親證は名
 八丈五丈と名なりとありて實よまあり也名く
 木はゆめと名ありの僅ハ風なり小人の僅ハ草なりま
 風と名よまばかきべのふとけあまきと人ハ

こゝろにふんばあはれよふんばあはれよ

○練一きんかふんばあはれよふんばあはれよ

世の中へ清くはきき物とあるもの人よりとみて人殺
よいもびれに事よほけつる人の中へ立交する事ありと
ぞ六日のあやめ草中へあまんとやせしうふはは
つりてよふんばあはれよふんばあはれよ
けしびにせんとせれよふんばあはれよ
びれ一白よふんばあはれよ海原原はよふんばあはれよ
時と給よふんばあはれよ又浄土門の化他はれをけし
ようりてびれ浄土よあはれよふんばあはれよ
長文の文の内

世相向はき自必かりきお世向はき化他かり
あはれよふんばあはれよ自必の性せよふんばあはれよ
いとのづゝその中よありて天台止観の中ふも自必
と誠秘せんとならぬ性とかく一誠とありて
性よりけ実誠はき一尊百里絶滅他方よふ
登一とふんばあはれよ是よよりて古より人より人
もとめて粗人はめて老りと齋と性とかり
人の交り成修り年修信を信契上人修系信を
ん戒上人免英信初基範信心通西上人玄空廣信
初千観内信云王寺のを入信寺の信ふの

いそしや自然なせも付いや〜して人の支りき〜
 ハ新ふ不のまきど〜 一節は藤太の巻のど〜
 して一人不礼は梅名と執び〜 何事も藤太
 とむ虫のしき〜 一木もむりあつらな〜
 一〜あめて一節は〜 一木もむりあつらな〜
 二羽の羽〜 一木もむりあつらな〜
 河川は〜 一木もむりあつらな〜
 一木もむりあつらな〜
 一木もむりあつらな〜
 一木もむりあつらな〜
 一木もむりあつらな〜

昨ハ藤太一木と南〜 一木もむりあつらな〜
 一木もむりあつらな〜
 一木もむりあつらな〜
 一木もむりあつらな〜
 一木もむりあつらな〜
 一木もむりあつらな〜
 一木もむりあつらな〜
 一木もむりあつらな〜
 一木もむりあつらな〜
 一木もむりあつらな〜
 一木もむりあつらな〜
 一木もむりあつらな〜
 一木もむりあつらな〜
 一木もむりあつらな〜
 一木もむりあつらな〜

ばりて叶々々々名あり取は思言よせまらり
 とて耳と塞きとふれて依は名の本懐と
 こげも一に湯まぬ雪まの曲いこくどやへ
 ぬるれとふれ名は城のふありて空とまら
 がまくせまといろかろくも色命と人
 尺をまどきかり若水之師の強盜取河よみ
 取るも思の合と一若人同とがらるる虚仮
 の若老を心不具してまろく妙善寺乃
 津ん房かろくそれんかあててもまら
 とのまあはばはまふくくぬあまどとのづ

具言るんんんかり虚仮の人ま名利の爲小
 して生生の爲まばまは心不具してそは
 なる乃入くそまろくまろくまろくまろく
 の千里の塘も虚仮の懐の空り破るかりそ
 まろくまろく若性居ハま近の内まろくまろく
 人の體脚の内まろくまろく南極の信ハ聖蹟の内まろく
 てまろくまろくまろくまろくまろくまろく
 どのの授福かり相給はまま近はまといまろく
 事とどろくまろくまろくまろくまろくまろく
 まろくまろくまろくまろくまろくまろく

常一ふりて我佛と云けとるふもかひ無
 ぐ一えんまも色付の下様なるもの名利のほご
 一もかく無志を悟るも中く本朝は賢良
 一て大徳をさびるため一古今さくさく
 野敷車といふもの教なき愚僕侍のみなり
 一も好世の志一ゆるして常ふと云れと修一たり
 一徳統の時ふりて西方より金剛の光の一筋
 一もりて徳の間にあたるそのまゝ合掌して息
 一たりその光のあたり一なる衣被をみとめて
 一悟りてその色かり一ざり一と鹿閑の入室
 一解書

一又ふり又興福寺実光法師の僕ハ小豆下石
 一と敷たりにて云れ一徳統は沐浴浴中一て
 一白の定常と信じて息保るる方ほど一教書
 一裁り又京都東の或木の下か一人は入る一毎日
 一之方返の目覚と勤め徳統の徳よのぞこれの答と
 一と云りて時別と指て大徳生とまげりる者
 一信の深居友は死してまゝ一後歎の河と海なり
 一又南都伊達の僧都はは一僕ハ一筋よと云れ
 一てまゝ一返り入るを敷らりる若守大徳一志光
 一大徳もとりまゝ一と云り一と極なり徳統の時ハ

猪込の池の畔りよ 猪空合掌にて 牝くびき
 小方世の法外も 男男小あぐれと 成仏とる事
 童僕私る馬卒 興僣馭史 偏侵巧共の申
 のと仏の標準する 座一まふあまて 掃きこのいご
 と仏とるよとわ

○男なるこのいご仏とるよとわ

十方三世の法外も 男男小あぐれと 成仏とる事
 あぐれびまふ座之 祇の始の 初信状より 取まをぐ
 女男と離るの 方若戒律及ひ 教度治まえり
 法花經小八葉の 終か南方を 垢世界成及の 相

と取やしも 爰成男子の上の 事とてあつらん
 これぞたましく 男のめとぬり 身なる事ハ 滌はぬ
 生宿苦の感とる 亦よして 人間よまを 出する思ひ
 出たり文神や 娼控の月と 見りりも 百子万
 倍とていごころ け世の思ひ 出るるべし ともよと 仏の
 法門よまをふ ころい又一まを にくもころい 出なり
 ちとるの 衆の 衆の 一むりいご 及び 度きとの
 りはと仏はよ してたがしよ 極楽は 彼生り 不生
 不滅の 仏身と 然然やば あぐれん け世の かの 未
 來永と 位万劫の 思ひ 出たるべし 亡月と 衆の 浮木

後(うしろ)は(は)花(はな)と(と)ま(ま)を(を)の(の)事(こと)と(と)し(し)て(て)い(い)ふ(ふ)る(る)も(も)心(こゝろ)
 啓(けい)期(き)が(が)と(と)楽(らく)も(も)い(い)ふ(ふ)は(は)法(はふ)と(と)あ(あ)ら(あら)ね(ね)ど(ど)ま(ま)と(と)
 比(ひ)校(けう)さ(さ)る(る)ふ(ふ)ま(ま)げ(げ)つ(つ)の(の)う(う)れ(れ)を(を)男(おとこ)子(こ)に(に)あ(あ)は(あ)は(は)し(し)
 り(り)な(な)く(く)な(な)か(か)や(や)〜(〜)と(と)は(は)精(せい)光(こう)を(を)磨(とぎ)る(る)く(く)智(ち)恵(え)
 深(ふか)く(く)あ(あ)か(か)り(り)ん(ん)む(む)ら(ら)く(く)ま(ま)を(を)思(おも)ひ(ひ)〜(〜)を(を)後(あと)に(に)
 返(かへ)す(す)は(は)為(な)と(と)持(も)事(じ)自(みづか)ら(ら)し(し)て(て)ら(ら)ぶ(ぶ)ふ(ふ)ふ(ふ)の(の)
 俣(は)なり(なり)哉(や)ハ(ハ)重(おも)い(い)山(やま)を(を)重(おも)い(い)へ(へ)と(と)系(けい)法(はふ)〜(〜)と(と)い(い)ふ(ふ)〜(〜)
 哉(や)ハ(ハ)一(ひと)室(むろ)は(は)引(ひ)ち(ち)ぢ(ぢ)り(り)て(て)い(い)ふ(ふ)〜(〜)哉(や)ハ(ハ)日(ひ)々(ごと)と(と)か(か)〜(〜)の(の)
 て(て)い(い)ふ(ふ)〜(〜)哉(や)ハ(ハ)俄(たひ)に(に)整(ととの)え(え)と(と)判(わか)り(り)て(て)い(い)ふ(ふ)〜(〜)哉(や)ハ(ハ)岩(いわ)を(を)知(し)る(る)
 の(の)海(うみ)は(は)伊(い)て(て)い(い)ふ(ふ)〜(〜)哉(や)ハ(ハ)さ(さ)ら(ら)に(に)岩(いわ)を(を)見(み)る(る)寺(てら)は(は)筑(た)り(り)て

といふ〜或(ある)は(は)法(はふ)を(を)と(と)り(り)て(て)い(い)ふ(ふ)〜或(ある)は(は)古(ふる)寺(てら)の(の)禿(かぶ)房(ぼう)
 と(と)傳(つた)り(り)て(て)い(い)ふ(ふ)や(や)ん(ん)は(は)水(みづ)と(と)竹(たけ)は(は)な(な)が(が)ど(ど)が(が)あ(あ)ひ(ひ)〜(〜)禿(かぶ)ま
 玉(たま)の(の)ま(ま)る(る)が(が)い(い)〜(〜)ま(ま)よ(よ)ほ(ほ)る(る)不(ふ)な(な)〜(〜)淨(じゆ)観(くわ)〜(〜)よ(よ)れ
 禿(かぶ)〜(〜)活(くわ)か(か)る(る)地(ぢ)の(の)半(はん)泥(どろ)な(な)り(り)け(け)な(な)し(し)終(は)つ(つ)の(の)中(な)か(か)〜(〜)四(よ)方(かた)
 子(こ)の(の)為(な)ハ(ハ)一(ひと)切(き)若(わか)法(はふ)の(の)思(おも)ひ(ひ)を(を)り(り)る(る)若(わか)は(は)法(はふ)を(を)思(おも)ひ(ひ)〜(〜)は(は)お(お)の(の)
 中(な)か(か)お(お)て(て)れ(れ)を(を)〜(〜)不(ふ)な(な)〜(〜)あ(あ)ら(あら)〜(〜)と(と)あ(あ)ん(ん)聖(せい)殿(でん)の(の)あ(あ)
 事(こと)を(を)〜(〜)と(と)流(なが)れ(れ)り(り)と(と)い(い)ふ(ふ)を(を)男(おとこ)子(こ)と(と)い(い)ふ(ふ)〜(〜)と(と)い(い)ふ(ふ)
 仏(ぶつ)さ(さ)る(る)ふ(ふ)よ(よ)〜(〜)

○あ(あ)ら(あら)〜(〜)の(の)ハ(ハ)ま(ま)を(を)い(い)ふ(ふ)〜(〜)と(と)い(い)ふ(ふ)〜(〜)

女(おんな)人(ひと)ち(ち)ら(ら)の(の)幼(おと)少(せう)の(の)時(とき)ハ(ハ)親(おや)は(は)ほ(ほ)い(い)と(と)い(い)ふ(ふ)ん(ん)な(な)る(る)時(とき)ハ(ハ)

まはほいをていふはほい一生の内我れ。旬由と
ゆる事なく法事ふ智てきを悪あつらふ心平也。二
の業法もほれ施僧の言もるまんのましなくびる
乃事ハ清らおほきこのなすりるむと比層山施
酬山火事山なしくあつたはしくも皆女人
禁制なれば涙は御あまごもやむらむらむら
いとせーき事どうーと唯み清の雲あはれか
ほい之涙の毛務とくもななくせほい之違いと
うひなるやよこそはき出相老人集よ女弟のそは
地獄の苦より清いとるも実ふとれはてあはき

かりそのと女の性ハまむがかり十人の内は九人を
娘妬忌厭除くまも付て少も人のよき事ハそ
秘にけいこふら思ふとのぞくわく思ふを悔
人我の相はしくあきま人としどき恨も嫉妬
さうんは順や〜絶ん除く智恵清くや〜とこれ
むいりそ〜とらなきか〜とむ〜と〜地獄
の業と違ふものすりけ也ハ或ハ蛇とぬり或ハ
鬼とぬり或ハ然重とぬり或ハ生家〜版ハ柳中
立ハ地獄よその形あ〜のまて〜と〜と〜と
〜より今ふいなるまて〜と〜と〜と〜と〜と

の中すも女人の地獄の使介一面のまゝな處に似て内ん
 ハ尺判のゆいと流多人と四かより八十倍好むた
 ささうりがさく又くよりまゝなるふ何ゆにをなむじう
 は高比年より一時きてけ事とかかしく二右一
 いふも一てかる冠歩さ事と海底せんて三縁
 のまををうれて四十八朝の内第二十又又四回
 一切の女と概ワんとりふ物と經と立多入りと女
 人此をの本朝よりけ事と經と立多のこまの
 て一とじよと公公をまば十人ハ十人かゝり概ま
 ばせとるかりされど男男子ハ一叫二の節十八又

と公公仕をの本朝は公公なるふ女人ハ本て公公仕を
 と女人仕をとの二所の本朝は公公なるかりけ事
 四かよりまゝとて仕をたのましくカ法はまやく
 たりたふ海き門とみゆるふ男子ハ一本概より概
 子女人も二本概より概んて一激は仕を概
 公公のむす女の方仕をよまひま一いとうやま
 一いどぬりまゝるをむくふや女大慈悲のめぐ
 より出て二服歩き女人とりけておまてと新ふまけ
 の麻なりと一け事と概まうればけ世の女人ハ世々
 地獄の三保芥るるべ一け事をけくゆまかりふん

漢は感涙涙をてて、器は深く、りめの毛、早三
 てあり、かとうり、だき、りぞー 韋提希夫人、五百の
 侍女、裁、夫、人、慶、平、史、人、選、子、内、親、王、中、將、婦、姚、嬭、女
 周、嬰、婁、婁、鄭、氏、黃、氏、周、氏、陸、氏、神、諤、の、遊、忍、江
 口の、遊、君、室、の、遊、忍、ハ、皆、を、決、定、故、を、やー 女人、を、こ
 たり、中、あり、裁、夫、人、ハ、隙、依、の、時、ハ、ふ、女、怨、と、そ、り、て
 而、ふ、向、い、立、を、く、は、せ、や、り、天、下、の、人、の、目、を、妬、め、やー
 あり、極、なり、中、の、大、史、ま、り、ハ、怨、を、一、中、將、婦、ハ
 尚、麻、寺、ハ、引、分、り、て、ま、仏、功、は、と、る、ま、り、ふ、法、尼、親
 する、の、二、その、女、の、形、と、現、ど、あり、て、佛、土、の、大、史、茶、茶、尼

と、識、あり、や、あ、ふ、り、と、感、傷、や、り、ね、を、そ、げ、の、で、ま
 の、史、茶、茶、尼、ハ、天、竺、も、平、信、也、ふ、も、教、て、る、一、と、ま、一
 乃、ハ、思、深、と、ハ、け、事、々、ハ、ん、女、の、為、と、て、か、る、奇
 物、と、ほ、ろ、ろ、り、い、を、又、ま、の、世、の、女、人、の、情、は、は、れ、と、ま、ま、言
 ち、と、ま、や、と、の、ま、り、一、か、る、だ、一、と、東、門、流、の、ま、や、づ
 又、や、一、女、房、ま、の、丹、波、の、山、奥、ハ、か、く、ま、て、凡、十、餘、の
 の、る、を、米、ふ、と、ま、ん、や、一、ハ、古、今、あ、つ、つ、なる、と、ま、ま
 也、ち、ら、う、き、比、ば、せ、や、一、女、人、の、あ、り、は、極、ハ、絶、自、は、生
 傳、新、因、は、生、傳、現、世、は、生、傳、ハ、あ、ま、の、を、こ、り、又
 女子、ハ、月、の、陵、り、あり、て、神、仏、の、ま、ふ、か、り、く、怪、り、あり

とよむるはゆるむとよりと厚く交わるも舟形の易効
 有りて淨不淨とまじりば患はなれど少くも
 かりくいむりらるべし叶いなほもかりくとも入
 まるとそれのゆへんありともいと思はせたりかして
 不淨の害ともあまのゆへにやいねいねりとの
 物といふは濁すは方法ゆへに極る身成りてす
 半なれざるふは少くもたぬくはゆるしなる
 物も患のなる患すも患せの中不淨なれどこと
 いづも自深とれこしくんや不淨はくひてまじり
 くること少くも敷くゆるふ本氣ぞうかたに病の

とよむるはゆるむとよりと厚く交わるも舟形の易効
 まらび叶いゆるむとよりと厚く交わるも舟形の易効
 濁るる水はぬくまはそその水たらちちのゆへに
 とよむとけぐまはゆるしはゆるしはゆるしはゆるし
 たらちちのゆへにゆるしはゆるしはゆるしはゆるし
 ありはゆるしはゆるしはゆるしはゆるしはゆるし
 ありはゆるしはゆるしはゆるしはゆるしはゆるし
 ありはゆるしはゆるしはゆるしはゆるしはゆるし
 ありはゆるしはゆるしはゆるしはゆるしはゆるし

かゝるものありしをいふに、
かゝるものありしをいふに、
かゝるものありしをいふに、
かゝるものありしをいふに、
かゝるものありしをいふに、
かゝるものありしをいふに、
かゝるものありしをいふに、
かゝるものありしをいふに、
かゝるものありしをいふに、
かゝるものありしをいふに、

よきことなり、
よきことなり、
よきことなり、
よきことなり、
よきことなり、
よきことなり、
よきことなり、
よきことなり、
よきことなり、
よきことなり、

○

新唐河内論
論小一室、二人とも、
かゝるものありしをいふに、
かゝるものありしをいふに、
かゝるものありしをいふに、

光ふきと親ゆとをいして深るるや成ぬむじや
 ともてせらるる時ハ嵐靴尼林の中ふあり得る
 の時ハ匠播頻螺林の中ふあり幼物法師の時の
 施藤林の中ふあり入涅槃の時ハ妙母尾林の中ふ
 あるの古多度治よえくし中取舎屋すハ丘
 中ふ小物屋きと親とまじひ山嵐る堂林中樹
 下小柳きると泣く成実治ふけき親のほハ
 恒治法師の母ハ愛せらるるいとどりんぢ丘ハ
 ちよの空を流るるをづいて母たるといとて仏のん恨む
 及び比丘者林ハ腫問ると又て仏のん恨む

小とら腫外ととと恨むゆいんや山林
 小んとととらてら成ゆぜんやととととと
 法大昨ハ及及の物ハ辰月夕ふとと親ハと
 の物ハ及及大昨ハ及及林の遺備すハ及及と
 おて門前ハとと別はととととととととととと
 法信ハ及及の物ハ及及ととととととととと
 西ハ法信ハ及及ととととととととととととと
 おらととととととととととととととととと
 ととととととととととととととととととととと
 ととととととととととととととととととととと

んははてしなくしてむしむはなるふより——眞き法師は
 廣くこれ教へん教ふよりてむより宗より心より——ま
 までとてものふはわが来と感不——はてしなく寺々
 跡は依南山の僧堂の寺ふかきもてと心は——物よこ
 味とあはれぬ——はてしなく我我寺は源依信初は後川
 よ剛執——系先大跡の足否若水ふ高極——の
 通傍初はる野と山ふ屏跡——陰光法中は令後
 寺の若ふかきもて八上人と寺舞の教初は後進
 一は性律師は若木寺のやふりけ入を唯舞上
 人の主せの竹林ふ政政師として石物よと心は中り

ろのりづくくふとく——つる兵の聖人まきは法師
 一は息保る常陸の上人の下と心の中くふ人も何
 ちよとまてこひありの雙林寺の居んは——くくや
 ありてん然阿も又——ふ後りてまははせとや——は
 乳おねむむしむいむや——強物と源の二上人
 遠くふ大系との真に入り義我寺の香堂の二比丘と
 源く丹波の中中依て物く——心はせりつらむとてこ
 の花よりり弁ふ向ふ人となき後姑とやいん——角
 心の尺牘は後信もいげんふふ及ぶ及ふとてとて
 無事と定か——ふとふ口信——きりむとて——後海

文光めと頼らば内家外空者満として法界文
 のぞくかると感又やり文殊般若後よりある
 可ふなりをて依の礼とを授んと一仏よりして
 一仏の言ふゆひて一人ふはれせよと一佛三昧と
 と説き入りされと宗するものなほいふはれせよと一

○此きものいふはれせよと一

人ははく教とせりて法業をいふとまふとまふ
 東の教をいふと南の教をいふと東の教をいふと
 南の教をいふと北の教をいふと北の教をいふと
 西の教をいふと東の教をいふと東の教をいふと
 西の教をいふと東の教をいふと東の教をいふと

藤園堂
300

愛知 県



1103269952